様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　５月３１日現在

機関番号：３７１０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2009～2010
課題番号：２１８２００７４
研究課題名（和文）　フランス近現代思想における身体論（愛・性・家族から見たその展開）

研究課題名（英文）　Theory of Body in French modern and contemporary thought

研究代表者
藤田　尚志（FUJITA　HISASHI）
九州産業大学・国際文化学部・講師
研究者番号：８０５５２２０７

研究成果の概要（和文）：一年目は近現代フランスのさまざまな思想家の著作を読み、そこに現れる身体観を、愛・性・家族の諸問題を通じて解き明かすことに努めた。この準備作業を経て、二年目の秋に国際シンポジウム「結婚の脱構築――レヴィ=ストロース、ボーヴォワール、クロソウスキー、デリダ」を開催し、海外の研究者らとともに、20 世紀フランス思想に現れる身体の諸問題を、「結婚」という具体的な例に即して思考することを試みた。

研究成果の概要（英文）：In the first year, we read French modern and contemporary thinkers, trying to seize their theory of body through inextricable problems of love, sexuality and family. Then, at the autumn of the second year, we organized an international conference “Deconstruction of Marriage - Levi-Strauss, Beauvoir, Klossowski, Derrida”, to describe through the concrete example of marriage the problems of body in the 20th century French thought with the collaboration of over-sea researchers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	970,000	291,000	1,261,000
2010 年度	880,000	264,000	1,144,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,850,000	555,000	2,405,000

研究分野：人文・社会
科研費の分科・細目：哲学
キーワード：フランス哲学、身体、愛、性、家族

１．研究開始当初の背景

DC, PD でフランス近現代思想における身体論を、科学的・芸術的・政治的な観点から検討するうちに、豊かな思想的鉱脈であるフランス近現代思想の身体論にもおそらくは一つの「方向性」とも言うべきものが孕まれていることが明らかになってきた。それが、「(非) 有機的 (non)-organique」、すなわち身体外技術を絶えず取り込んでいく身体を根幹に据える身体論である。

ただし、科学・芸術・政治の観点から身体を見ることは、問題を多角的に検討する上で貴重であったが、切り離された個別的な諸側面を再び統一的な観点から眺めるには限界があった。(非) 有機的身体論をさらに精緻に検討するには他の多角的かつ統一的な視点が必要であった。この欠けていたものをもたらしてくれるように思われるのが、「愛・性・家族において制度づけるものとしての身体」という観点である。

２．研究の目的

「研究活動スタート支援」では、この新たな研究の第一段階として、19-20 世紀フランスの思想家たちの身体論を、恋愛論・性愛論・家族論との関連において、「身体を通して人間の生を制度づけるもの」の思考として取り上げ、２年間の研究期間で、ありうべき新たな身体論（制度づけるもの institution としての身体）の理論的可能性を探ることを目的とした。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法としては、

（１）まず、ＤＣ２、ＰＤで行なった研究プロジェクトをさらに深化させていくこと、これまでに扱いえなかった思想家・テクストを取り上げることで、我々がこれまで 19・20 世紀フランス思想に確認しえた、「(非) 有機的」な（身体外技術を無際限に取り込んでいく）身体論の基本的な方向性をより精密に捉え直すことである。

（２）次に、新たに取り上げるそれらのテクストを新たな観点から取り上げること、すなわちそれらのテクストにあらわれる身体論を「愛」「性」「家族」の側面から焦点化していくことで、フランス的身体論の可能性と限界を見定めることである。ここでは後述する「ポストセクシュアル」の観点が重要になると思われる。

４．研究成果

（１）第一点（ＤＣ２、ＰＤで行なった研究プロジェクトをさらに深化させていくこと）に関しては、2009 年 10 月に法政大学で行なわれた国際シンポジウムで、ベルクソンとドゥルーズの生気論的な政治哲学を比較する発表（発表⑪)、また、2010 年 3 月にまずは明治大学でベルクソンとシモンドンの想像力論・記憶論を比較する発表 (発表⑧)、次いで同月、福岡の九州日仏学館でベルクソンとドゥルーズの記憶論を比較する発表（発表⑦）など計 9 つの発表を行ない、計 8 本の論文を執筆・公刊することでその目的を一定程度達成したと考える。

（２）第二点（身体論を「愛」「性」「家族」の側面から焦点化していくこと）に関しては、2010 年 11 月 17 日に大阪大学で（発表③)、2010 年 11 月 20 日に九州日仏学館で(発表②)、2011 年 2 月 10 日にはフランス・ENS で（発表①)、愛・性・家族の結節点としての「結婚」に関する哲学的な考察をめぐる国際シンポジウムを開催することで、自分自身発表するとともに、他の講演者（フレデリック・ケック、パトリス・マニグリエ、大森晋輔の各氏）との意見交換によって、さらなる発展を見ることができた。そこでは「ポストセクシュアル」の観点が重要になってきた。この点に関する発表は計 3 本行ない、いずれも論文化が進行中である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

① Hisashi Fujita, "Politiques de l'émotion. Une lecture des *Deux Sources de la morale et de la religion* (1932). I. La portée de la voix : l'appel et la personnalité", *Croisements* (Revue francophone de sciences humaines d'Asie de l'Est, sous l'égide des sociétés savantes francophones chinoise, coréenne, japonaise et taïwanaise), avril 2011, no. 1, pp. 208-236.査読無

②藤田尚志、「ライシテの彼岸と此岸――フランス現代思想における宗教の問題」、『日仏社会学会年報』第 20 号、2010 年 12 月、1 - 21 頁、ISSN 1343-7313、査読無

③藤田尚志、「場所の記憶、記憶の場所―ベルクソン『物質と記憶』における図式論の問題」、『九州産業大学国際文化学部紀要』第 45 号、2010 年 3 月、181 - 193 頁、査読無

④藤田尚志、「デジャヴをめぐって：偽なるものの力と記憶の無為―ドゥルーズか、ベルクソンか III」、『記憶と実存～フランス近現代文学におけるネオ・ジャクソニスム的傾向～』(科学研究費補助金中間報告書)、2010 年 3 月、55 - 81 頁、査読無

⑤藤田尚志、「訳者解説 II　フランス現代思想におけるゴーシェの位置」、マルセル・ゴーシェ、『民主主義と宗教』、トランスヴュー、2010 年 2 月、209 - 227 頁、査読無

⑥藤田尚志、「ドゥルーズか、ベルクソンか―何を生気論として認めるか」、『思想』(岩波書店)第 1028 号「ベルクソン生誕 150 年」、2009 年 12 月、210 - 223 頁、査読無

⑦藤田尚志、「ベルクソン研究の現在――サーヴェイ：フランス、英米、日本の現状」、『思想』(岩波書店) 第 1028 号「ベルクソン生誕 150 年」、2009 年 12 月、118 - 139 頁、査読無

⑧藤田尚志、「踏切板と石板―ベルクソンとレヴィナスにおける物質性の概念」、『九州産業大学国際文化学部紀要』第 43 号、2009 年 9 月、113 - 133 頁、査読無

〔学会発表〕(計１２件)

①Hisashi Fujita,《 La métaphysique du mariage et sa déconstruction - Contrat, Priorité, Individualité 》, ″La Philosophie française contemporaine en Asie″, Journée d'étude internationale organisée par Hisashi Fujita et Arnaud François. Financé par le Centre International d'Étude de la Philosophie Française Contemporaine (CIEPFC) et Master Erasmus Mundus EuroPhilosophie, à l'Ecole normale supérieure (ENS), salle Dussane (Paris, France),2011.2.10

②Hisashi Fujita,《 La métaphysique du mariage et sa déconstruction - à partir de Derrida 》, le 2e colloque international dans le cadre du projet ″La Philosophie Française à Fukuoka !″ (PFF) : ″La déconstruction du mariage - Lévi-Strauss, Beauvoir, Klossowski, Derrida″, à l'Institut Franco-Japonais du Kyushu (Fukuoka, Japon),2010.11.20

③藤田尚志、「結婚の形而上学とその脱構築――ドゥルーズとともに」、大阪大学最先端ときめき研究推進事業「バイオサイエンスの時代における人間の未来」第４回ときめきセミナー（2010 年 11 月 17 日（水)、大阪・大阪大学・吹田キャンパス)

④藤田尚志、「ライシテの彼岸と此岸――フランス現代思想における宗教の問題」、日仏社会学会 2010 年度大会シンポジウム「文化的経験の多角的照射――ライシテの多様性を巡って」(2010 年 11 月 13 日(土)、東京・東洋英和女学院)

⑤藤田尚志、「制度と運動―contre-institution について」、『哲学への権利』討論会（2010 年 9 月 28 日（火）、韓国・延世大学、主催：延世大学韓国学術研究院)

⑥藤田尚志、「ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を今どう読み直すか――カール・シュミットとともに」、《人文社会科学系若手研究者セミナー》第一回（2010 年 7 月 3 日、東京日仏会館（恵比寿))

⑦ Hisashi Fujita,《 Déjà-vu : la puissance du faux et le désoeuvrement de la mémoire. Deleuze ou Bergson III 》, Le 1er colloque international dans le cadre de ″La philosophie Française à Fukuoka !″ :《 La pensée et le mouvant - Aristote, Bergson, Merleau-Ponty, Deleuze 》, à l'Institut Franco- Japonais du Kyushu (Fukuoka, Japon),2010.3.27

⑧ Hisashi Fujita,《 Imagination et Invention chez Bergson et Simondon 》, Colloque international 《 Le système métastable et l'individuation - Autour de la philosophie de Gilbert Simondon 》, à l'Université de Meiji,2010.3.24

⑨藤田尚志、「デジャヴをめぐって：偽なるものの力と記憶の無為――ドゥルーズか、ベルクソンか III」、ネオ・ジャクソニスム研究会連続シンポジウム「記憶と実存――フランス哲学と精神医学、そして文学」第１回：ベルクソンとジャネ（2009 年 11 月 21 日、明治大学・駿河台キャンパス)

⑩ Hisashi Fujita,《 Deux signes du réel : ″déjà-vu″ bergsonien et ″membre fantôme″ merleau-pontienne 》, Journée d'études《 Vie et mémoire - débat sur le déjà-vu chez Bergson et Deleuze 》 à l'Université de Tokyo, 2009.10.28

⑪Hisashi Fujita,《 Désir et joie：deux philosophies politiques de la vie. Deleuze ou Bergson II 》, Colloque international ″Tout ouvert. *L'Evolution créatrice* en tous sens″, à l'Université Meiji, 2009.10.25

⑫藤田尚志、「場所の記憶、記憶の場所―『物質と記憶』における図式論の問題」、第 68 回日本哲学会大会（2009 年 5 月 17 日、慶応大学・三田キャンパス)

〔図書〕(計４件)

①Shin Abiko, Naoki Sugiyama et Hisashi Fujita (eds.), *Disséminations de l'évolution créatirce*, Olms, à paraître en 2011 (Hisashi Fujita,《 De "l'industrie de l'être vivant". L'organologie bergsonienne 》).

②Alexandre Lefebvre and Melanie White, *Bergson, Politics and Religion*, Continuum, forthcoming in 2011. ISBN 978-0826422347 (Hisashi Fujita, "Anarchy and Analogy. The violence of the language in Bergson and Sorel")

③マルセル・ゴーシェ『民主主義と宗教』、伊達聖伸・藤田尚志訳、トランスヴュー社、2010 年。

④Débora Cristina Morato Pinto et Silene Torres Marques (org.), *Henri Bergson, Crítica do negativo e pensamento em duração*, São Paulo : Alameda, 2009. ISBN 978-85-7939-004-3 (Hisashi Fujita, article ″Khorologia da memória, ou como localizar o não-localizável? Uma leitura de Matéria e Memória″ (traduction portugaise), pp. 131-154).

６．研究組織

(1)研究代表者

藤田　尚志（FUJITA　HISASHI）

九州産業大学・国際文化学科・講師

研究者番号：80552207

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし